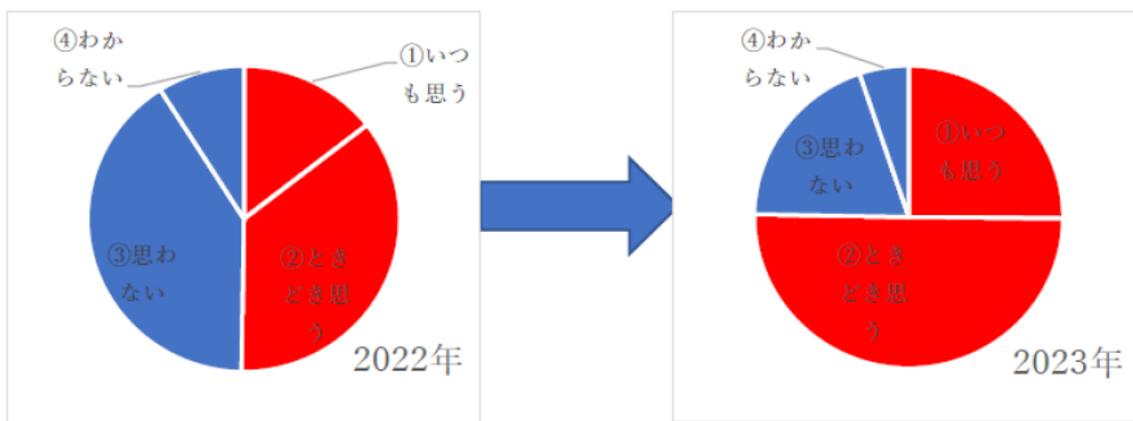


「コロナ禍の中で働いて私たちが感じたこと」アンケート結果

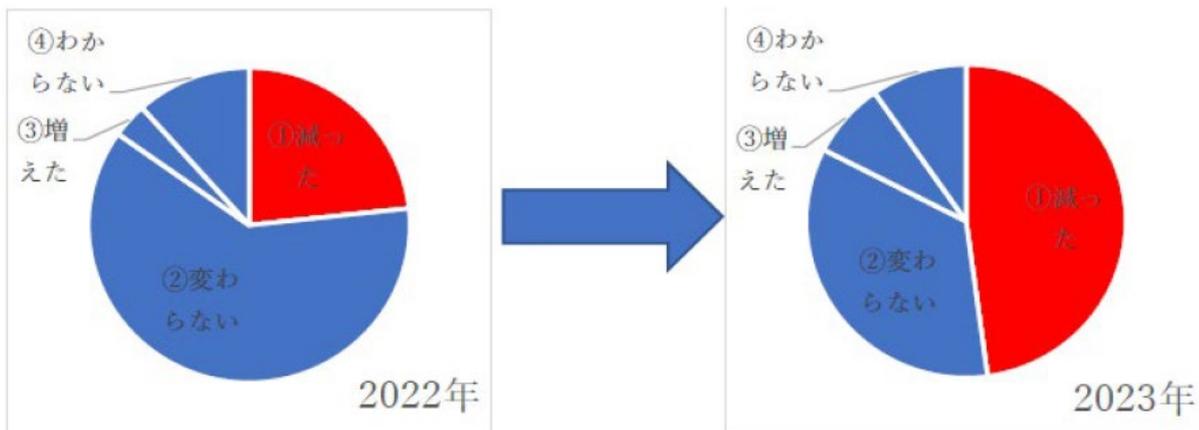
4分の3の人が辞めたい

京都医労連は3月9日の産別統一行動に組合員から集めた「コロナ禍の中で働いて私たちが感じたこと」アンケートの集約結果（2,079人分）の記者会見を行いました。主な内容は次の通り。

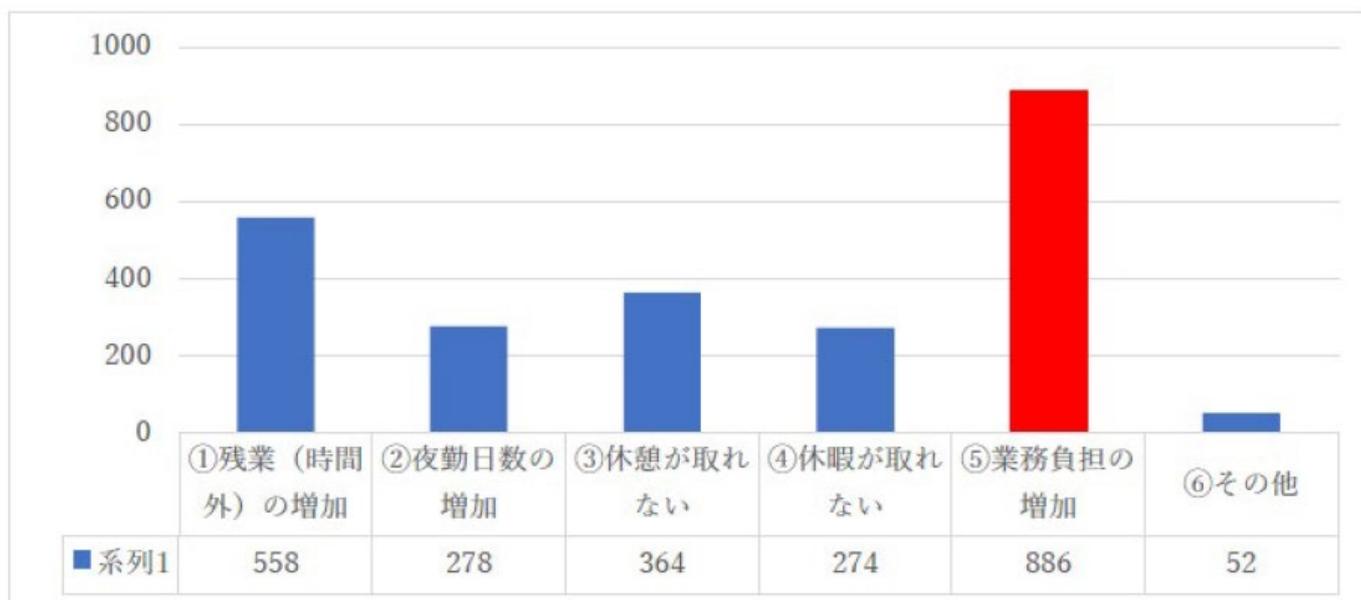
約4分の3人以上が、仕事を辞めたい



昨年から倍増、5割近い人が「人員体制は減少」



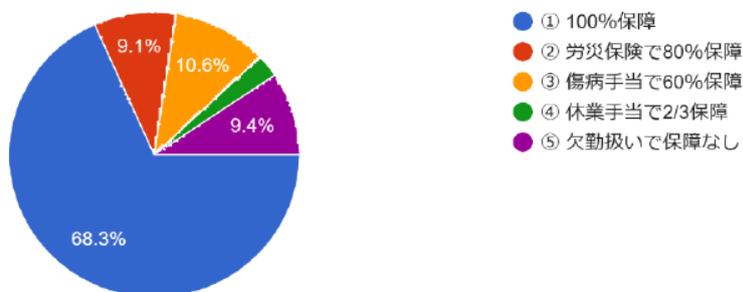
増えない人員体制で「業務負担」は増加



労災保険給付の活用はわずか9.1%

（3）賃金はどうなりましたか？

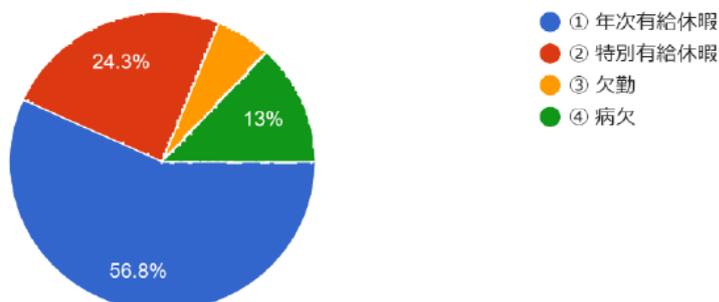
700 件の回答



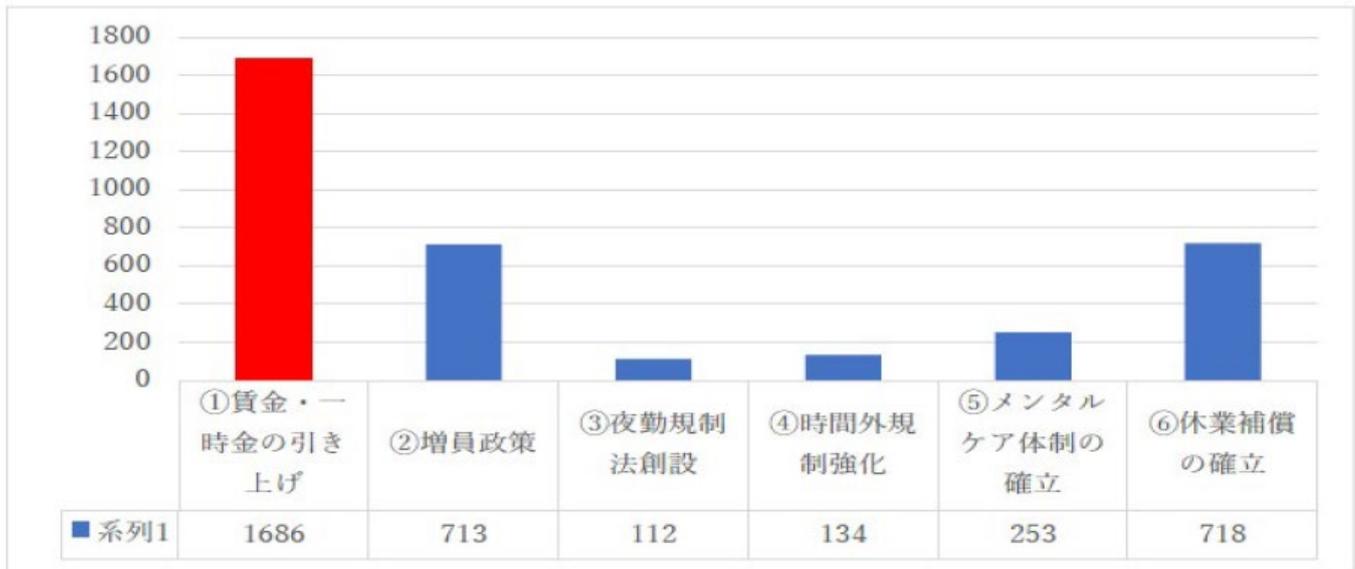
コロナに罹患した時は、6割近くが年次有給休暇

（2）その時の休みはどうなりましたか？

782 件の回答

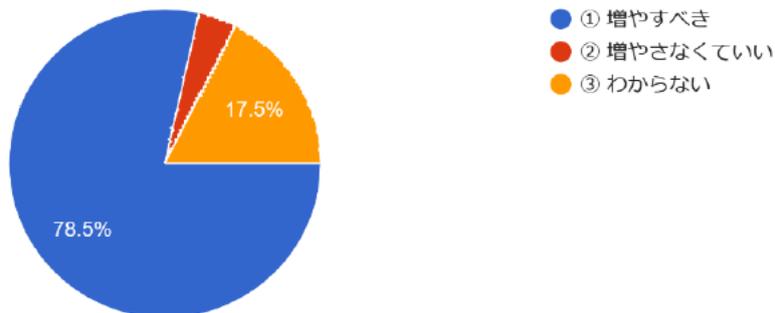


国や自治体に求める私たちの処遇



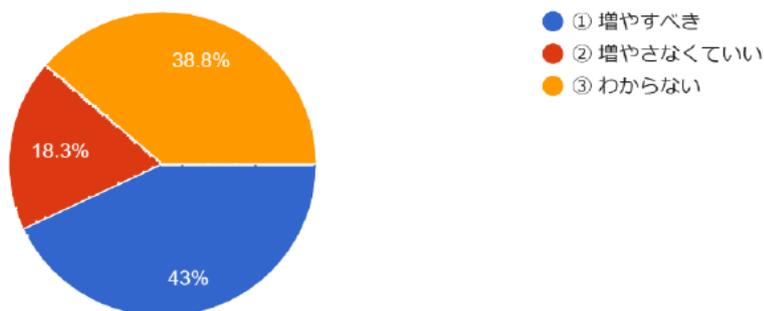
(4) コロナ禍を経て、医療・介護従事者は増やすべきですか？

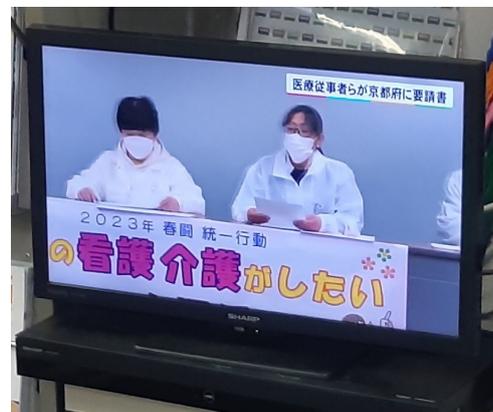
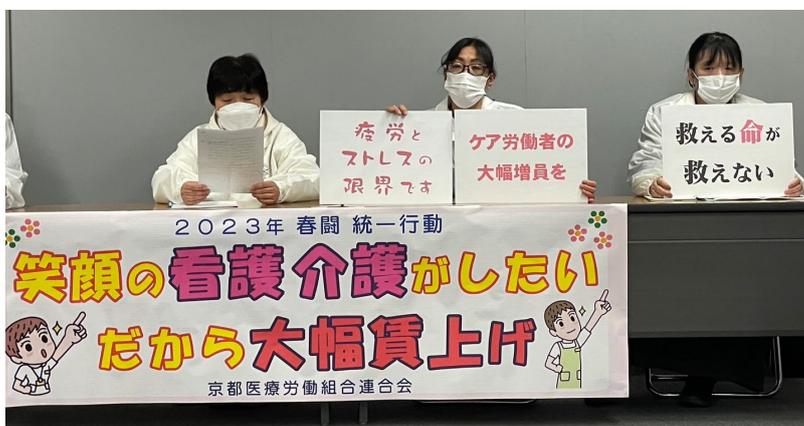
1,824 件の回答



(5) コロナ禍を経て、コロナ患者等を受け入れる感染症病床は増やすべきですか？

1,775 件の回答





記者会見では、勝野さん、八木さん、永野さんから現場で働く看護師の切実な訴えと過酷な現場実態を訴えました。KBS京都、読売新聞、京都新聞、朝日新聞、時事通信社等が記者意見には参加しました。当日、KBS京都の夕方のニュースに放映されました。

アンケート、現場の声を届ける京都府要請

3月9日、統一行動に京都府要請を10時から行いました。京都府からは担当ごとに4人の方が対応してもらいました。京都医労連からは、勝野委員長、八木副委員長、坂田書記長、そして永野第二日赤委員長が参加。京都府には、①処遇改善の京都府独自施策、国への改善、②感染症法の5類への移行に関わらず、医療体制の維持・拡充、③コロナで傷んだ介護事業所への財政支援、④地域医療構想の見直しを現場の実態やアンケート結果を交えながら要請を行いました。



夕方、京都総評のなかまとともに四条河原町に集結

京都医労連からは、坂田書記長と佐々木書記次長が「回答延期が続く、京都医労連の回答状況が報告され、医療・介護労働者が賃上げの置いてけぼりになる。賃上げ前進にむけて、さらなる奮闘する」と決意。

